

こども発達センター一年報

(平成30年度版)



豊橋市こども発達センター

目 次

I 豊橋市こども発達センターの概要

1 設置目的など	1
2 建物の概要	2
3 事業の概要	2
4 職員体制	3

II 各部門の事業概要

第1 相談部門

1 電話相談	4
(1)～(7)電話相談件数、性別、年齢、居住地域、相談内容、紹介経路、対応状況	
2 面接相談	9
(1)～(7)面接相談件数、性別、年齢、居住地域、相談内容、紹介経路、対応状況	
3 障害児等療育支援事業	14
(1)在宅支援訪問療育等指導事業 (2)施設支援一般指導事業	

第2 医療部門

1 診療業務	17
(1)～(7)小児科、児童精神科、整形外科、耳鼻いんこう科、歯科、心理検査・心理面接、その他	
2 リハビリテーション業務	24
(1)理学療法 (2)作業療法 (3)言語聴覚療法	

第3 通園事業部門

1 外来グループ療育事業	34
(1)～(8)目的、定員、基本理念、運営方針、療育計画、入園までの経緯、保護者等支援、活動実績など	
2 重症心身障害児通園事業(児童発達支援事業)	40
(1)～(7)目的、定員、基本理念、運営方針、療育計画、家庭訪問療育「ゆりっこ」、活動実績など	
3 重症心身障害児(者)日中一時支援事業	47
(1)～(6)目的、定員、利用日時・時間、基本理念、一日の過ごし方、活動実績など	

III 資料編

1 会議等	51
2 条例等抜粋	52
3 建物の平面図・案内図	53

※ 件数や回数等の記載:年月日が示されていないものは、平成30年度中の実績数字

※ 表中の年度の表記:H30→平成30年度

I 豊橋市こども発達センターの概要

1 設置目的など

豊橋市こども発達センターは、心身に障害のある児童及びその疑いのある児童の地域における療育体制の充実及び福祉の向上を図り、子どもの成長発達を支援する療育システムの拠点となる施設として、平成22年4月1日に設置された。

障害の早期発見・早期療育、障害児のいる家庭への支援、療育関係機関等との連携、地域における療育の技術力向上を施設のコンセプトとしている。

子どもの発達について、保護者から相談を受け、子どもの育ちを支えるためにできることを保護者とともに考え、組み立てる、相談と支援のための場所を目指している。誰もが住み慣れた地域で、心豊かに安心した生活を送ることができるよう、保健所・保健センターとも連携しながら、専門スタッフを配置し、相談、医療、通園事業などの各種サービスを提供している。

【施設整備の経緯・主な出来事】

平成12年度	第4次基本計画において、地域療育センター(仮称)の建設を位置づけ
14年度	豊橋市PFI基本方針の中で、モデル事業候補として位置づけ
15年度	市民懇談会から意見書提言を受ける、10月:市民病院に児童外来開設
16年度	整備推進会議の設置、PFI可能性調査の実施(委託)
17年度	中野町国立病院解体工事、市民懇談会での検討、3月:基本計画の策定
18年度	4月:18・19年度のアドバイザー契約、9月:中野町用地取得(市公社) 10月:審査委員会設置、12月:実施方針等、1月:特定事業の選定
19年度	8月:入札、10月:落札者決定、12月:事業契約締結→基本設計着手
20年度	5月:実施設計着手・中野町用地取得(市)、12月:工事着手
21年度	8月:愛称「ほいっぷ」に、1月:施設引渡し、2・3月:開設準備
22年度	4月:供用開始・保険医療機関届、8月:寄附受領(WICとよはし)
23年度	6月:みんなの福祉機器展in豊橋、3月:第96回療育談話会
24年度	11月:寄附受領(国際ソプロチスト豊橋ポート)、一月早いクリスマスケーキ作り慰問
25年度	5月:歯科診断用テレビシステム導入
26年度	2月:第104回療育談話会
27年度	11月:開設5周年記念イベント、こどもの福祉機器展
29年度	3月:第110回療育談話会
30年度	11月:みんなの福祉機器展in豊橋

【関係法上の位置付け】

診療所(無床)医療法第1条の5第2項
・ 保険医療機関(歯科併設)、障害児(者)リハビリテーション料施設基準届出、脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)施設基準届出、集団コミュニケーション療法料施設基準届出
指定自立支援医療機関(精神通院医療)障害者総合支援法第59条第1項
生活保護法等による指定医療機関(医科・歯科)

2 建物の概要

- (1) 設置主体 豊橋市
(2) 所在地 豊橋市中野町字中原100番地
(3) 敷地面積 27,133.18㎡(併設施設:保健所・保健センター、休日夜間急病診療所、休日等歯科診療所)
(4) 概要 構造:鉄筋コンクリート造2階建(3,800.06㎡)
駐車場:400台(保健所・保健センターと共用)
(うち車椅子対応駐車場8台(専用))、駐輪場:10台
(5) 開館時間 午前8時30分から午後5時15分
(6) 休館日 日曜日、月曜日、祝休日、年末年始

参考 上記の併設施設に加え、同一敷地内に豊橋市医師会・豊橋市歯科医師会・豊橋市薬剤師会の関連施設も整備された。「保健・医療・福祉」の機能が一体となったゾーンとして、公募により愛称を「ほいっぷ」とした。

3 事業の概要

(1) 事業の種類

- ・相談事業 電話相談、面接相談、障害児等療育支援事業など
- ・診療事業 診療業務、リハビリテーション業務
- ・通園事業 外来グループ療育事業、重症心身障害児通園事業(児童発達支援事業)、重症心身障害児(者)日中一時支援事業

(2) 対象地域及び対象者

概ね東三河地域の障害児及びその家族、また、子育てに関する相談などを必要とする家族やところに病を持つ児童及びその家族など(障害児:原則として18歳未満の知的障害児、身体障害児、発達障害児及びこれらの疑いがある児童)。

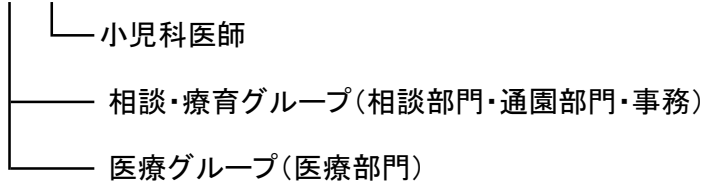
【東三河8市町村の人口】

※平成27年国勢調査

区分	全人口(人)	児童人口(人)	
		0～5歳	6～17歳
豊橋市	374,765	19,967	44,459
豊川市	182,436	9,996	21,926
蒲郡市	81,100	3,678	9,424
田原市	62,364	3,087	6,911
新城市	47,133	1,888	5,084
設楽町	5,074	133	378
東栄町	3,446	100	237
豊根村	1,135	25	98
計	757,453	38,874	88,517

4 職員体制

センター長(児童精神科医師)



(平成31年3月31日現在)

組 織			職員	嘱託員	アルバイト	合計	委託等		
相談部門			保 健 師	1		5			
			臨床心理士	2					
			保 育 士		1		1		
医 療 部 門	診 療	小 児 科	医 師		1	14			
		児 童 精 神 科	医 師	1			1		
		整 形 外 科	医 師					1	
		耳 鼻 い ん こ う 科	医 師					1	
		看 護	看 護 師	1				4	
		心 理 検 査 ・ 心 理 療 法	臨 床 心 理 士	1	2				
		検 査	臨 床 検 査 技 師					2	
		歯 科	歯 科 医 師						2
			歯 科 衛 生 士						7
	医 療 事 務	事 務 職					6		
	リハビ リテー ション	理 学 療 法	理 学 療 法 士	2	1		15		
		作 業 療 法	作 業 療 法 士	3	1				
		言 語 聴 覚 療 法	言 語 聴 覚 士	3	5				
	通園部門		外来グループ療育事業	保 育 士	1	4	5		
重 症 心 身 障 害 児 通 園 事 業 ほ か			看 護 師	1		2	16		
			理 学 療 法 士	1					
			保 育 士		1	1			
事 務			事 務 職	4	1		5		
合 計				21	17	17	55	16	

Ⅱ 各部門の事業概要

第1 相談部門

保健師1名、臨床心理士2名、保育士2名の計5名の相談員を配置し、当センター利用の最初の窓口として、下記の業務を行っている。

○実施している業務

- | |
|------------------------------------------------------|
| 1 相談・援助 |
| ○ 電話・面接相談 |
| ○ 診察の受付等案内 |
| 2 障害児等療育支援事業 |
| ○ 在宅支援訪問療育等指導事業、在宅支援外来療育等指導事業、施設支援一般指導事業の実施及びコーディネート |
| 3 関係機関との連絡・調整 |
| ○ 保健・福祉・教育・医療など関係機関との連絡・調整 |

1 電話相談

電話相談件数、性別、年齢、居住地域、相談内容、紹介経路、対応状況については以下のとおりである(各項目の不明件数は、匿名希望の相談や申告がなかったもの)。

(1) 電話相談件数

5、6、7月が他月と比べて件数が多い。理由として、進級に関する相談や個人懇談において当センターを勧められたという相談が多くなったと推測される(表1-1)。

表1-1 電話相談件数(延べ)

(単位:件数)

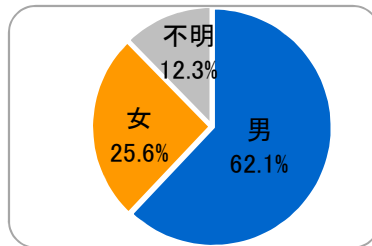
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30	95	130	131	148	97	88	95	96	71	78	105	100	1,234
H29	79	85	140	137	74	104	108	95	82	82	92	101	1,179
H28	119	124	166	170	109	161	135	107	117	105	95	116	1,524
H27	120	122	129	150	92	118	155	125	140	110	117	122	1,500
H26	92	100	119	154	95	104	140	89	102	107	128	113	1,343

(2)性別

男女比はおよそ男児6割、女児3割であった。匿名のため性別不明が1割であった(表1-2)。

表1-2 男女比

区分	人数(人)	構成比(%)
男	766	62.1
女	316	25.6
不明	152	12.3
計	1,234	100.0

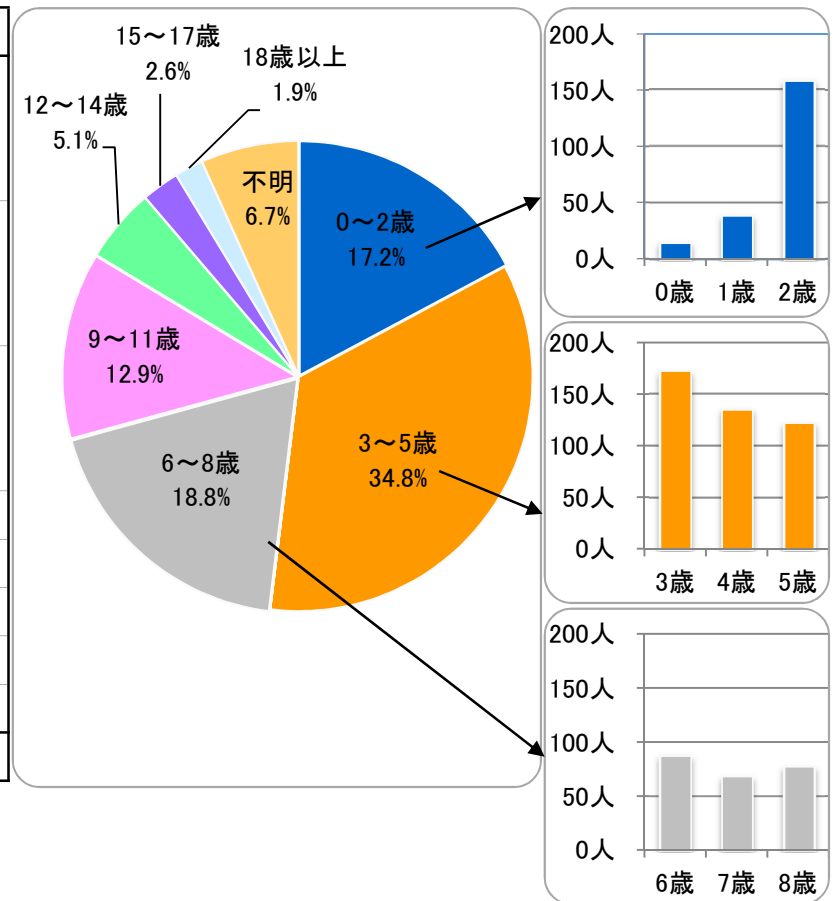


(3)年齢

「3～5歳」が最も多く全体の3割を占めている。次いで「6～8歳」、「0～2歳」の順となっている(表1-3)。

表1-3 年齢別件数

区分	人数(人)		構成比(%)
	年齢	人数	
0～2歳	0歳	15	17.2
	1歳	39	
	2歳	158	
3～5歳	3歳	172	34.8
	4歳	135	
	5歳	122	
6～8歳	6歳	87	18.8
	7歳	68	
	8歳	77	
9～11歳	159		12.9
12～14歳	63		5.1
15～17歳	32		2.6
18歳以上	24		1.9
不明	83		6.7
計	1,234		100.0

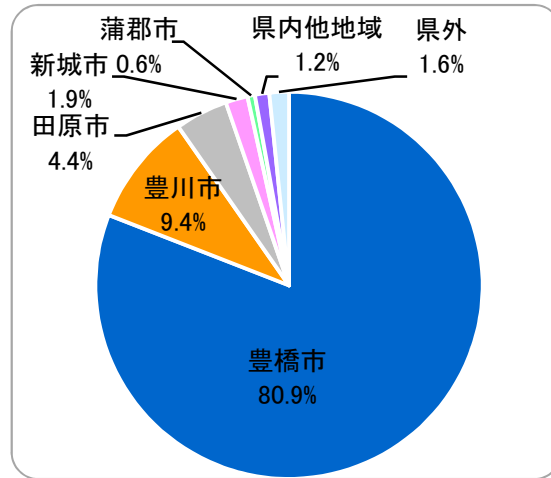


(4) 居住地域

東三河地域からの相談が中心であるが、県内他地域や県外からの相談も入っている。相談内容に応じて面接を行うほか、居住地域の支援施設の紹介や連絡等も行っている(表1-4)。

表1-4 居住地域

地域	人数(人)	構成比(%)
豊橋市	998	80.9
豊川市	116	9.4
田原市	54	4.4
新城市	23	1.9
蒲郡市	8	0.6
県内他地域	15	1.2
県外	20	1.6
計	1,234	100.0



(5) 相談内容

「発達の遅れ」が4割、「医療」が3割で合わせて7割以上を占めている。「医療」は、受診希望に関する相談を含む(表1-5)。

表1-5 相談内容(重複あり)

相談内容	件数(件)	構成比(%)
発達の遅れ	813	41.8
集団適応	82	4.2
登園・登校しぶり	35	1.8
情緒・感情の問題	17	0.9
行動面の問題	82	4.2
医療	614	31.6
福祉制度	53	2.7
進路	43	2.2
育児の心配・不安	61	3.2
家族関係	17	0.9
社会生活	24	1.2
親自身の問題	23	1.2
虐待関連	55	2.8
その他	25	1.3
計	1,944	100.0

(6) 紹介経路

「ホームページ」が最も多く、次いで診療部やつつじ教室などの「発達センター内」、「保健機関」、「教育機関」からの紹介となっている。また、「医療機関」からの紹介では、連携先の豊橋市民病院から紹介されるケースが多い(表1-6)。

表1-6 紹介経路(重複あり)

紹介経路	件数(件)		構成比(%)
医療機関	131	市内 (92)	10.4
		市外 (39)	
発達センター内	153		12.2
保育園・幼稚園など	93	市内 (78)	7.4
		市外 (15)	
教育機関	142	市内 (108)	11.3
		市外 (34)	
保健機関	143	市内 (118)	11.4
		市外 (25)	
福祉機関	74	市内 (55)	5.9
		市外 (19)	
児童相談所	34	市内	2.7
		市外	
市町村虐待関連機関	46	市内	3.7
		市外	
家族・親族	23		1.8
友人・知人	41		3.3
広報・パンフレット	12		1.0
ホームページ	353		28.2
不明	0		0.0
その他	9		0.7
計	1,254		100.0

(7) 対応状況

「相談・助言」が全体の4割近くを占めている。また、医師の診察希望は高いが、予約から初診までに数ヶ月を要する現状がある(表1-7)。

表1-7 対応状況(重複あり)

対応方法	人数(人)	構成比(%)
診療部への紹介	305	22.1
他機関の紹介・連絡	297	21.5
面接の予約	175	12.7
相談・助言	537	38.9
つつじ教室の紹介	14	1.0
その他	53	3.8
計	1,381	100.0

2 面接相談

面接は原則1回60分とし、相談部職員の臨床心理士、保健師、保育士のいずれかの職種で対応している。

また、必要に応じリハビリスタッフも同席して、診察への橋渡しや受診までの関わり方についての助言、受診には至らないが子どもの発達に心配を感じている保護者の相談に応じ、保護者の不安軽減につなげるようにしている。現在の心配ごとを整理しながら問題解決のための支援を行っている。

(1) 面接相談件数

表1-8 面接件数 (単位: 件)

区分	H30		H29		H28		H27		H26	
	新規	延べ	新規	延べ	新規	延べ	新規	延べ	新規	延べ
4月	31	38	30	40	35	48	43	51	34	44
5月	27	41	25	40	53	67	22	36	31	46
6月	51	58	26	33	58	79	51	60	27	39
7月	48	61	26	30	61	78	54	66	37	49
8月	39	44	34	43	52	63	41	65	28	39
9月	26	30	26	27	38	54	39	56	37	47
10月	19	25	25	36	51	70	48	69	34	49
11月	33	43	19	22	39	48	47	60	37	51
12月	27	35	21	24	39	57	42	61	32	47
1月	17	28	19	27	26	48	34	42	27	43
2月	32	38	22	28	32	46	37	44	41	59
3月	31	35	26	29	33	56	46	60	50	63
計	381	476	299	379	517	714	504	670	415	576

(2) 性別

男女比はおよそ7:3の割合で、男児の方が多い(表1-9)。

表1-9 男女比

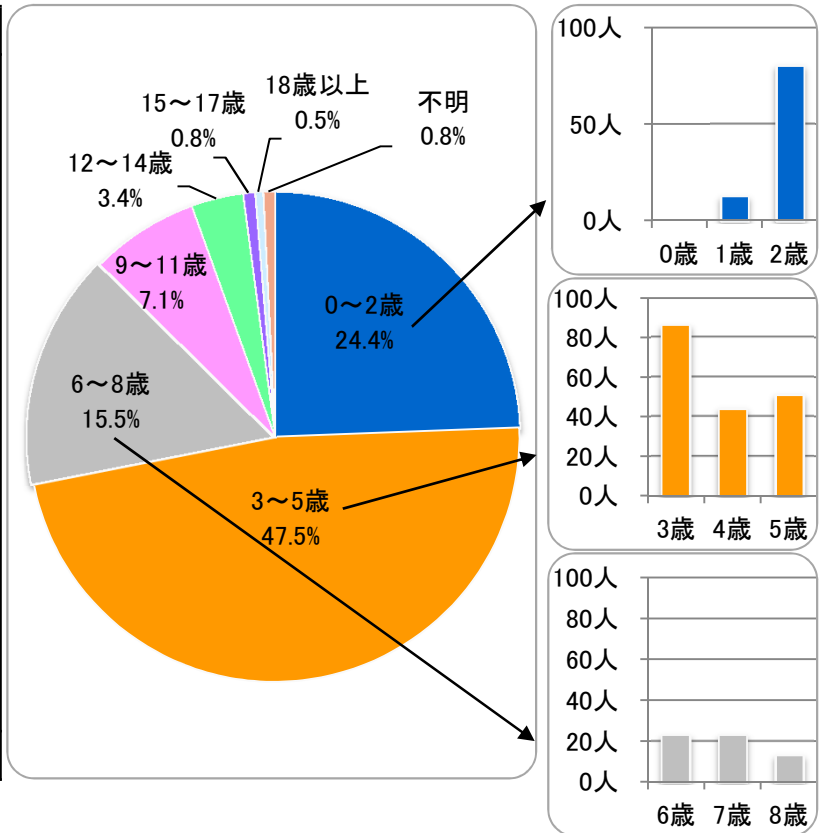
区分	人数(人)	構成比(%)
男	276	72.4
女	105	27.6
計	381	100.0

(3)年齢

「3～5歳」が最も多く、全体の5割近くを占めている。次いで「0～2歳」、「6～8歳」の順となっている(表1-10)。

表1-10 年齢別件数

区分	人数(人)		構成比(%)
0～2歳	0歳	0	24.4
	1歳	13	
	2歳	80	
3～5歳	3歳	86	47.5
	4歳	44	
	5歳	51	
6～8歳	6歳	23	15.5
	7歳	23	
	8歳	13	
9～11歳	27		7.1
12～14歳	13		3.4
15～17歳	3		0.8
18歳以上	2		0.5
不明	3		0.8
計	381		100.0

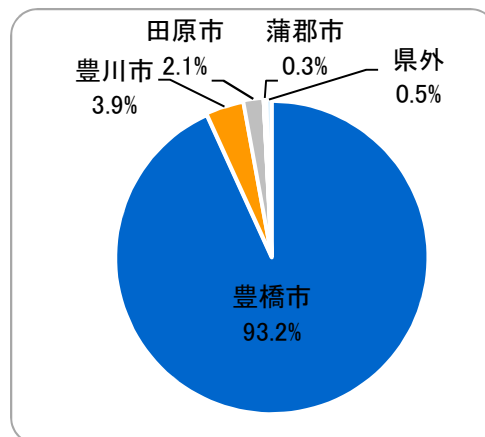


(4)居住地域

電話相談と同様に「豊橋市」内からの相談が最も多く、全体の9割以上を占めている。次いで「豊川市」、「田原市」の順となっている(表1-11)。

表1-11 居住地域

地域	人数(人)	構成比(%)
豊橋市	355	93.2
豊川市	15	3.9
田原市	8	2.1
新城市	0	0.0
蒲郡市	1	0.3
県内他地域	0	0.0
県外	2	0.5
計	381	100.0



(5) 相談内容

「発達の遅れ」の相談が最も多く全体の4割を占めている。次いで、「医療」の順となっている。「医療」には、受診予約に関する相談も含まれている(表1-12)。

表1-12 相談内容(重複あり)

相談内容	件数(件)	構成比(%)
発達の遅れ	288	40.4
集団適応	43	6.0
登園・登校しぶり	2	0.3
情緒・感情の問題	7	1.0
行動面の問題	15	2.1
医療	217	30.4
福祉制度	27	3.8
進路	13	1.8
育児の心配・不安	35	4.9
家族関係	23	3.2
社会生活	6	0.9
親自身の問題	10	1.4
虐待関連	23	3.2
その他	4	0.6
計	713	100.0

(6) 紹介経路

診療部やつつじ教室など「発達センター内」からの紹介が最も多く、次いで「ホームページ」、「保健機関」となっている。

「保健機関」からの紹介としては、乳幼児健診や健診事後相談で勧められるケースが多い(表1-13)。

表1-13 紹介経路(重複あり)

紹介経路	件数(件)		構成比(%)
医療機関	12	市内 (8)	3.1
		市外 (4)	
発達センター内	119		30.5
保育園・幼稚園など	46	市内 (46)	11.8
		市外 (0)	
教育機関	18	市内 (14)	4.6
		市外 (4)	
保健機関	68	市内 (68)	17.4
		市外 (0)	
福祉機関	5	市内 (4)	1.3
		市外 (1)	
児童相談所	3	市内 (2)	0.8
		市外 (1)	
市町村虐待関連機関	16	市内 (15)	4.1
		市外 (1)	
家族・親族	2		0.5
友人・知人	9		2.3
広報・パンフレット	3		0.8
ホームページ	87		22.3
不明	2		0.5
その他	0	市内 (0)	0.0
		市外 (0)	
計	390		100.0

(7) 対応状況

「相談・助言」、「診療部への紹介」が多い。「他機関の紹介・連絡」としては、他の医療機関や保健機関、福祉サービス等を紹介している(表1-14)。

表1-14 対応状況(重複あり)

対応状況	件数(件)	構成比(%)
診療部への紹介	188	39.4
他機関の紹介・連絡	57	11.9
相談・助言	205	43.0
つつじ教室の紹介	9	1.9
相談の継続	10	2.1
その他	8	1.7
計	477	100.0

3 障害児等療育支援事業

市内の保育・教育・療育に携わる各施設からの申込みに応じ、専門職を派遣し、子どもや保護者及び施設職員を対象とした支援を行っている。相談部職員がコーディネーターとして申込内容に応じ診療部門の専門職などの派遣や日程等の調整を行い、支援にあたっている。

※ リハビリテーション業務 各項も参考

(1) 在宅支援訪問療育等指導事業

「就学ステップへのつどい(講演会)」において前年度までは、くすのき特別支援学校のみ学校紹介していたが、今回から豊橋特別支援学校、豊橋聾学校も紹介することとした。参加者からは、各学校からの説明を聞くことで、特別支援教育への理解が深まったとの意見が多く聞かれた。また小児科医師から「就学に向けての準備について」というテーマで、保護者が就学に向けての知識と今後の見通しをもつことができるよう講演を行った。

8月には講演会として、「一人ひとりの子どもの特性に沿った学習支援～要因から考える具体的支援～」をテーマに山田充先生を講師に招き実施した。具体的な事例に基づいた話で、参加者からは非常に分かりやすかった、個々のアセスメントが大切であることが分かった、との意見が多く聞かれた。

表1-15 実施内容及び回数

種別	内容および方法	回数
個別	個別相談など	5
集団	リハビリデイキャンプ	1
	肢体不自由児対象のイベント(座談会含む)	3
	就学へのステップのつどい(講演会)	1
	就学へのステップのつどい(座談会)	1
	高等学校進学についての情報交換会	2
	保護者向け講話(児童発達支援事業所等で行ったものも含む) くすのき学園 高山学園	2
	健診事後教室参加保護者への支援(ST, OTで各8回/年)	16
	エクササイズグループ	9
	講演会	1
計		41

表1-16 対象児(者)数

区分	延べ人数
保護者 ※	758
知的障害児	7
自閉症児	193
肢体不自由児	31
重症心身障害児	6
その他	500
計	1,495

※ 対象児(知的障害児、自閉症児、肢体不自由児、重症心身障害児、その他)の保護者を含む。

表1-17 センター職員の参加状況

職 種	延べ人数				
	H30	H29	H28	H27	H26
小児科医師	2	2	3	4	2
児童精神科医師	1	1	2	2	2
理学療法士	10	23	20	15	27
作業療法士	35	25	22	18	18
言語聴覚士	12	10	10	19	15
臨床心理士	2	1	2	7	4
保育士	21	21	12	6	3
保健師	1	2	2	2	2
コーディネーター	21	18	21	17	26
その他	24	16	7	14	12
計	129	119	101	104	111

(2) 施設支援一般指導事業

市内各施設に専門職を派遣し、巡回相談および講演会、研修会などを実施している。

保育園・幼稚園・認定こども園、小中学校への支援としては、主に巡回相談を、園や学校等からの依頼に応じ、随時実施している。

特別支援学校への支援としては、市内のくすのき特別支援学校、豊橋特別支援学校の研修会・講演会での講師や個別支援を実施している。

また、施設(児童発達支援事業所等)への支援としては、市内療育機関へ巡回相談や事例検討会、放課後等デイサービス事業所等へ講演会、事例検討会を実施している。

表1-18 施設種別及び実施回数

施 設	H30		H29		H28		H27		H26	
	実数	延回数	実数	延回数	実数	延回数	実数	延回数	実数	延回数
保育園(認定こども園含む)	31	33	22	29	29	47	32	55	32	51
幼稚園(認定こども園含む)	6	9	5	8	10	15	9	11	12	24
小学校	9	11	7	9	10	16	13	20	16	22
中学校	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
特別支援学校	2	22	2	23	2	18	2	21	1	21
施設	6	23	10	26	15	33	12	30	5	29
その他	13	29	27	46	30	52	29	45	26	42
計	67	127	73	141	96	181	97	182	93	190

表1-19 参加関係者数

職 種	延べ人数				
	H30	H29	H28	H27	H26
保育園職員(認定こども園含む)	265	448	415	400	365
幼稚園教諭(認定こども園含む)	64	37	122	65	117
学校職員	559	555	561	420	454
施設職員	320	505	524	457	324
その他(保健師含む)	302	173	161	201	132
計	1,510	1,718	1,783	1,543	1,392

表1-20 センター職員の参加状況

職 種	延べ人数				
	H30	H29	H28	H27	H26
小児科医師	2	3	3	4	2
児童精神科医師	1	1	3	2	3
理学療法士	39	43	46	33	40
作業療法士	48	47	50	54	32
言語聴覚士	55	48	56	51	54
臨床心理士	32	47	75	77	61
保育士	77	83	91	100	80
保健師	2	9	1	0	1
コーディネーター	65	82	133	110	130
その他	9	13	4	12	3
計	330	376	462	443	406

第2 医療部門

1 診療業務

小児科(非常勤1名)、児童精神科(常勤1名、非常勤1名)、耳鼻いんこう科(非常勤・週2回)、整形外科(非常勤・週1回)、歯科(非常勤・週1回)による診察を行った。また必要に応じて心理検査・心理面接、生理機能検査、画像検査を行った(表2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-11、2-13)。なお心理面接は、個別的アプローチに加え、子ども対象のSST、保護者対象のペアレントトレーニングなど集団でのアプローチも含まれている。

初診の待機期間が長期化していることから、新センター長への交代に伴い、診療体制の見直しを行った。

(1)小児科

子どもの心の問題や発達についての診察、検査、各種リハビリテーション、心理面接を行った(表2-6)。

なお、初診待機期間は、概ね7ヶ月であった。

(2)児童精神科

子どもの心の問題や発達についての診察、検査、各種リハビリテーション、心理面接を行った(表2-6)。

なお、初診待機期間は、概ね7ヶ月であった。

前年度同様、再診患者の年齢層の上昇により、土曜日や夕方の時間での受診希望が増えており、再診枠の確保に苦慮した。

(3)整形外科(水曜日)

子どもの運動発達についての診察、保健センターでの健診後の精密健康診査、検査、各種リハビリテーション等を行った。また足の変形や補装具、治療用靴などの相談、作製を行った(表2-7、2-8)。地域に医療機関が増え、健診や相談の選択肢が広がったことから、受診者が減少した。

(4)耳鼻いんこう科(火曜日、金曜日)

ことばの遅れや聴こえについての診察、聴力検査を行った(表2-9、2-10)。

(5)歯科(木曜日午前のみ診療)

障害児歯科診療・障害児予防歯科指導・歯科相談を、歯科医師2名(豊橋市歯科医師会会員歯科医師15名によるローテーション)、専門医2名(月2回)、歯科衛生士7名の体制で行った。

表2-1 診察日

(平成31年3月現在)

区分	火	水	木	金	土
午前	小児科 耳鼻いんこう科	小児科 児童精神科 整形外科	小児科 児童精神科 歯科	小児科 児童精神科 耳鼻いんこう科	小児科 児童精神科
午後	小児科 児童精神科 耳鼻いんこう科	小児科 児童精神科 整形外科	小児科 児童精神科	小児科 児童精神科 耳鼻いんこう科	児童精神科

表2-2 診療科別・月別の利用状況(延べ人数)

(単位:人)

区分	小児科	児童精神科	整形外科	耳鼻いんこう科	歯科	リハビリ	計	開業日(日)	1日あたり人数	実人数
4月	246	513	40	81	58	766	1,704	20	85	1,325
5月	264	530	43	72	59	676	1,644	20	82	1,260
6月	271	654	43	94	51	795	1,908	22	87	1,463
7月	273	573	45	88	61	719	1,759	21	84	1,379
8月	294	447	49	80	69	689	1,628	22	74	1,278
9月	219	602	26	69	52	677	1,645	21	78	1,324
10月	256	586	47	74	49	762	1,774	22	81	1,384
11月	237	561	43	78	69	699	1,687	20	84	1,290
12月	231	542	42	84	44	696	1,639	20	82	1,322
1月	253	555	42	82	53	706	1,691	20	85	1,317
2月	233	553	45	74	48	672	1,625	20	81	1,295
3月	247	539	23	107	49	765	1,730	21	82	1,353
H30計	3,024	6,655	488	983	662	8,622	20,434	249	82	15,990
H29計	3,097	6,604	599	1,033	751	9,214	21,298	247	86	16,414
H28計	3,471	7,405	621	1,071	731	11,460	24,759	247	100	18,257
H27計	3,357	6,738	641	983	803	11,066	23,588	249	95	16,733
H26計	3,232	6,905	611	715	703	10,279	22,445	249	90	15,891

※ リハビリの人数は同日に複数のリハビリを行った場合は、1人として計上している。

表2-3 診療科別・年齢別受診状況

(単位:人)

区分	小児科	児童精神科	整形外科	耳鼻いんこう科	歯科	H30計	H29計	H28計	H27計	H26計
0~2歳	167	45	135	242	6	595	812	958	1,027	890
3~5歳	2,893	820	60	251	111	4,135	4742	6,114	5,732	5,452
6~8歳	3,199	1,325	73	110	161	4,868	4879	5,490	5,200	5,109
9~11歳	1,695	1,338	53	67	122	3,275	3288	3,557	3,352	3,176
12~14歳	825	1,284	47	56	139	2,351	2172	2,230	2,077	2,082
15歳~	641	1,638	72	120	50	2,521	2373	2,183	1,922	1,689
H30計	9,420	6,450	440	846	589	17,745				
H29計	9,877	6,319	537	865	668		18,266			
H28計	11,361	7,081	570	896	624			20,532		
H27計	10,649	6,563	585	837	676				17,388	
H26計	10,023	6,697	527	640	611					18,398

・月ごとの実患者数集計

・同月に複数科を受診した場合は診療科ごと計上している。

・小児科についてはリハビリ前の体調確認の診察を含む。

表2-4 年齢別受診状況

(単位:人)

区分	H30	H29	H28	H27	H26	H30 構成比(%)
0～2歳	519	703	819	862	747	3.2
3～5歳	3,528	4,032	5,178	4,782	4,537	22.1
6～8歳	4,261	4,332	4,779	4,428	4,324	26.7
9～11歳	3,010	3,004	3,251	2,970	2,837	18.8
12～14歳	2,237	2,074	2,122	1,915	1,880	14.0
15歳～	2,435	2,269	2,108	1,776	1,566	15.2
計	15,990	16,414	18,257	16,733	15,891	100.0

・月ごとの実人数の集計

表2-5 地域別受診状況

(単位:人)

区分	H30	H29	H28	H27	H26	H30 構成比(%)
豊橋市	11,698	12,058	13,439	12,252	11,515	73.2
豊川市	2,524	2,541	2,871	2,593	2,553	15.8
田原市	1,127	1,190	1,161	1,053	1,002	7.0
新城市	380	361	428	427	426	2.4
蒲郡市	126	120	181	206	198	0.8
設楽町	5	5	11	20	21	0.0
その他県内	51	67	72	97	97	0.3
県外	79	72	94	85	79	0.5
計	15,990	16,414	18,257	16,733	15,891	100.0

・月ごとの実人数の集計

表2-6 小児科・児童精神科:診断名別受診状況

(単位:人)

診断名	H30	H29	H28	H27	H26
広汎性発達障害 ※	2,087	2,168	2,424	2,193	2,180
注意欠如多動性障害	211	220	221	195	176
知的障害	157	146	138	127	127
言語発達遅滞	95	113	115	75	75
構音障害	72	76	86	79	58
適応障害	20	24	32	34	39
ダウン症候群	51	58	61	52	44
脳性麻痺	46	48	55	54	51
その他の染色体異常	46	46	60	50	43
学習障害	30	32	25	20	21
その他の先天性奇形	27	26	30	26	37
吃音症	29	28	28	15	16
反応性愛着障害	19	20	17	15	19
身体表現性障害	7	10	7	4	16
てんかん症候群	16	16	23	11	14
チック障害	12	11	9	15	16
受容性言語障害	20	19	19	13	14
反抗挑戦性障害	3	3	5	5	8
情緒障害	18	14	12	18	14
その他(選択性緘黙、社交不安障害、統合失調症、気分障害等を含む)	183	186	195	170	176
計	3,149	3,264	3,562	3,171	3,144

※H29年度までは、センター開設以降の受診者について掲載していたが、今年度より当該年度の受診者を掲載することとした。

※ 広汎性発達障害の詳細

(単位:人)

広汎性発達障害					
区分	H30	H29	H28	H27	H26
自閉性障害	814	816	793	651	494
知的障害を伴う	96	107	133	126	122
不注意・多動症状を伴う	346	347	348	296	308
その他	831	898	1,150	1,120	1,256

表2-7 整形外科:初診患者紹介元状況 構成比(%)

区分	H30	H29	H28	H27	H26
センター他科・他部門	10.4	7.2	10.3	2.8	5.1
健診(市内・市外)	80.2	84.2	80.0	84.4	85.2
医療機関	3.8	2.0	3.9	6.2	1.7
その他	5.6	6.6	5.8	6.6	8.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表2-8 整形外科:初診受診理由状況 構成比(%)

区分	H30	H29	H28	H27	H26
健診後精密健康診査	80.2	83.6	80.0	84.4	85.2
装具相談・作製希望	17.0	11.8	12.7	6.2	9.1
作業療法・理学療法希望	0.9	1.3	3.4	4.7	2.8
その他	1.9	3.3	3.9	4.7	2.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表2-9 耳鼻いんこう科:初診患者紹介元の状況 構成比(%)

区分	H30	H29	H28	H27	H26
センター他科・他部門	9.4	10.2	17.1	11.8	3.8
健診(市内・市外)	80.7	80.7	75.1	76.4	78.1
医療機関	4.2	5.1	1.8	3.5	8.3
学校	2.1	0.5	2.8	1.7	3.0
保育園・幼稚園・療育機関	0.5	1.0	0.0	1.8	0.8
その他	3.1	2.5	3.2	4.8	6.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表2-10 耳鼻いんこう科:受診理由状況 構成比(%)

区分	H30	H29	H28	H27	H26
聴力検査希望	94.2	95.5	89.4	91.7	95.4
言語療法希望	0.0	1.5	2.8	4.8	2.3
耳垢除去等(処置困難)	4.7	2.5	6.0	3.5	2.3
その他	1.1	0.5	1.8	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(6)心理検査・心理面接

心理検査・面接は、臨床心理士3名体制で行った(嘱託員2名含む)。

実施検査数の75%は発達・知能検査である(新版K式40%、WISCIV50%、その他10%)。子ども向けSSTグループ(月1×4グループ/1年間)、保護者向けペアレントトレーニング(10回×2クール)の実施するにあたり、開始時期と終了時期にはアセスメント機会が増えるため、心理検査・面接の実施数が増加している。

なお、心理検査・心理面接は、診察を受けた子どもに対し必要に応じて行っている。(表2-11)。

表2-11 心理検査・心理面接実施状況

(延べ件数)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
心理検査	H30	32	16	22	24	35	24	11	5	12	30	35	3	249
	H29	19	13	15	28	37	27	20	11	14	11	8	8	211
	H28	29	32	36	38	42	20	18	15	17	17	21	35	279
	H27	25	32	36	29	36	17	18	15	12	15	13	31	320
	H26	22	17	20	22	23	19	23	20	16	21	17	14	234
心理面接	H30	62	71	71	57	57	69	60	69	62	62	68	59	767
	H29	67	86	81	81	64	84	76	75	77	73	83	52	899
	H28	57	68	75	69	64	60	64	72	71	64	69	86	819
	H27	51	43	49	49	51	41	61	62	61	46	57	66	637
	H26	27	40	47	42	33	50	36	42	46	43	44	49	499

(7)その他

表2-12 診断書等発行状況

(単位:件)

区分	H30	H29	H28	H27	H26
自立支援医療診断書	12	32	32	34	27
障害児福祉手当診断書	2	5	0	6	4
特別児童扶養手当診断書	42	49	47	31	39
心理検査結果報告書 ※	12	9	14	8	33
健康診断書	3	3	5	4	2
障害年金診断書	38	28	22	19	9
一般診断書・意見書	147	198	197	160	121
精神障害者福祉手帳診断書	60	67	82	56	61
身体障害者手帳診断書	4	1	0	4	5
障害者総合支援法による医師意見書	9	17	15	8	11
計	329	409	414	330	312

※ 心理検査は診察にて全てのケースに対し結果説明を行っているが、必要に応じて文書を発行した。

表2-13 生理機能検査等の状況 (単位:件)

区分	H30	H29	H28	H27	H26
聴力検査	243	351	376	327	306
エックス線検査	113	200	221	229	232
ABR・ASSR	162	274	169	258	194
脳波検査	0	0	1	0	2
計	518	825	767	814	734

2 リハビリテーション業務

理学療法士(3名)、作業療法士(4名)、言語聴覚士(8名)によるリハビリテーションを行った(表2-14)。

表2-14 月別の利用状況 (単位:人)

区分	理学療法	作業療法	言語聴覚療法	延べ人数計
4月	160	254	426	840
5月	132	220	390	742
6月	174	254	439	867
7月	157	226	419	802
8月	150	205	405	760
9月	139	181	404	724
10月	163	237	428	828
11月	132	215	430	777
12月	148	207	412	767
1月	134	210	424	768
2月	146	193	397	736
3月	165	208	461	834
H30計	1,800	2,610	5,035	9,445
H29計	2,270	2,971	4,883	10,124
H28計	2,470	3,510	6,569	12,549
H27計	2,411	3,028	6,582	12,021
H26計	2,405	2,583	6,212	11,200

(1)理学療法

先天性や後天性の病気・事故などによる運動障害や運動発達がゆっくりな子どもに対して運動機能の改善を図る支援を行った(表2-15、2-16、2-17、2-18、2-19)。

また、障害児等療育支援事業への参加を通じ、地域支援を行った(表2-20)。

表2-15 年齢別状況 (単位:人)

区分	就学前児童						小学生		中学生	その他	計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	低学年	高学年			
H30	1	4	5	2	7	6	28	31	28	44	156
H29	1	7	6	9	5	7	39	36	32	36	178
H28	4	9	10	6	4	12	43	40	26	37	191
H27	8	9	8	6	12	14	42	32	25	33	189
H26	7	8	7	12	10	9	41	30	21	21	166

表2-16 診断区別状況 (単位:人)

診断区分	H30	H29	H28	H27	H26	備考
脳性麻痺	66	71	74	72	63	
運動発達遅滞	19	27	31	33	30	
二分脊椎	10	9	13	14	13	
ダウン症候群	5	10	10	13	9	
骨・関節疾患	3	3	4	5	7	先天性多発性関節拘縮症など
てんかん	3	3	3	5	5	
筋ジストロフィー	3	3	3	3	2	
脳挫傷	1	1	1	1	1	
その他染色体異常	22	23	21	19	13	ジュベール症候群、プラダーウィリー症候群など
その他脳神経疾患	16	19	20	17	18	脳形成不全、低酸素脳症など
その他先天性感染症	0	1	2	1	2	
その他	8	8	9	6	3	腕神経叢損傷、頸髄症など
計	156	178	191	189	166	

表2-17 通園・通学先の状況

理学療法利用者は学齢期の子どもが中心であり、約半数が豊橋特別支援学校に通学している。また、ここ数年で地域の学校へ通学する子どもが増えている。

(単位:人)

区分	H30	H29	H28	H27	H26
豊橋特別支援学校	78	85	88	87	78
その他特別支援学校	5	7	8	5	2
保育園・幼稚園・認定こども園	11	15	22	22	17
つつじ教室	3	1	0	4	4
高山学園	1	2	5	5	6
その他療育機関	6	8	9	12	11
小学校 通常学級	3	3	4	6	5
小学校 特別支援学級	18	26	25	19	14
中学校 通常学級	1	1	1	0	0
中学校 特別支援学級	1	1	1	1	4
その他	29	29	28	28	25
計	156	178	191	189	166

表2-18 新患数の状況

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30	2	0	0	4	1	2	2	1	1	0	0	5	18
H29	2	2	1	3	2	1	0	1	1	0	3	4	20
H28	5	3	3	1	0	3	3	2	1	2	1	4	28
H27	14	5	0	3	4	2	3	4	1	3	3	7	49
H26	4	2	4	3	2	2	5	1	1	3	2	4	33

表2-19 訓練終了の状況

(単位:人)

区分	H30	H29	H28	H27	H26
経過良好	10	19	8	6	5
他機関へ移行	5	11	14	10	10
転居	0	1	1	2	1
その他	10	9	10	7	8
計	25	40	33	25	24

表2-20 障害児等療育支援事業の参加状況

当地域における肢体不自由児教育の基幹校である豊橋特別支援学校とは、地域の学校に通学する子どもへの支援を協力して進めるほか、定期的に理学療法士が学校を訪問する「自立活動相談デー」の在り方を継続的に検討している。地域の学校の教員とは、支援学校が主催する肢体不自由教育勉強会に参加し個別相談に応じる以外に、今年度よりセンターでのリハビリや学校支援について紹介するため、講演の場を新たに設けた。今後も、理学療法士の専門性や相談機能の紹介をすることで改めて啓発の機会をつくり、医療と教育の連携を図ることで子どもたちにとってより良い学校生活を送るための支援になるよう努めていきたい。

また、地域の学校に通う(または通うことを考えている)保護者を対象に交流会を開催し、保護者同士が日ごろの不安や悩みを相談しあう場を提供した。

事業名		参加回数	延べ人数	備考
豊橋特別支援学校	自立活動相談デー	6	54	特別支援学校への定期的な巡回相談
	個別の巡回相談	6	10	
	肢体不自由教育勉強会	3	65	教職員向けの研修
	自立活動講習会	3	179	教職員向けの研修
巡回相談	小中学校	4	7	主に肢体不自由児に関する巡回相談
	児童発達支援センター 高山学園	6	45	ケース検討1回
	保育園・幼稚園・認定こども園	2	10	主に肢体不自由児に関する巡回相談
放課後等デイサービス事例検討会		1	17	豊橋市内放課後等デイサービス事業所の職員との事例検討会
保育園・幼稚園・認定こども園職員研修会		1	23	肢体不自由児の基礎知識に関する講話
肢体不自由児親子交流会		2	17	地域の学校に通学する肢体不自由児への集団活動、および保護者の座談会
夏休み運動イベント		1	34	肢体不自由児を中心とした集団活動
計		35	461	

(2)作業療法

手先が不器用な子どもや、遊びが広がらず行動面に心配のある子どもに対して、遊びを通して運動機能・認知機能・社会性の発達を支援した(表2-21、2-22、2-23、2-24、2-25)。

必要に応じて自助具(食事関連29個、整容関連1個、学習関連7個)、玩具などを作製した。

センター内の外来グループ療育事業への参加として、保護者向けに講習を行った。また、重症心身障害児通園事業(児童発達支援事業)の療育に定期的に参加、通園児に対して個別の作業療法を実施した。

前年度に引き続き、近隣の病院に勤務する作業療法士の研修を受け入れ、地域で小児の作業療法を行う病院・施設との連携を深めた。

表2-21 年齢別状況 (単位:人)

区分	就学前児童						小学生		中学生	その他	計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	低学年	高学年			
H30	0	2	9	16	42	54	122	69	23	9	346
H29	0	4	8	40	50	48	118	66	20	4	358
H28	1	7	24	40	51	68	131	62	14	4	402
H27	0	8	21	34	62	58	128	54	11	4	380
H26	1	4	18	40	46	58	116	39	6	5	333

表2-22 診断区分別状況 (単位:人)

診断区分	H30	H29	H28	H27	H26	備考
広汎性発達障害	163	156	206	196	168	
脳性麻痺	38	43	42	42	43	
ダウン症候群	32	33	29	27	19	
運動発達遅滞	29	28	32	30	27	
発達性協調運動障害	14	15	16	10	5	
知的障害	12	26	14	13	13	
てんかん	6	8	6	5	4	
急性脳症後遺症	5	4	5	5	4	
注意欠如多動性障害	4	4	4	5	7	
二分脊椎	2	4	3	2	5	
学習障害	1	1	3	3	2	
後天性外傷後遺症	1	0	0	1	0	
その他染色体異常	24	21	23	24	18	プラダーウィリー症候群など
その他の先天性奇形	10	11	13	11	12	ジュベール症候群など
その他	5	4	6	6	6	分娩麻痺など
計	346	358	402	380	333	

表2-23 通園・通学先の状況 (単位:人)

区分	H30	H29
豊橋特別支援学校	51	49
くすのき特別支援学校	37	26
その他の特別支援学校	4	4
保育園・幼稚園・認定こども園	72	93
つつじ教室	6	4
高山学園	25	26
その他療育機関	18	24
小学校 通常学級	42	40
小学校 特別支援学級	80	86
中学校 通常学級	2	3
中学校 特別支援学級	5	1
在宅	3	0
その他	1	2
計	346	358

表2-24 新患数の状況 (単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30	9	2	1	6	3	7	1	2	1	2	5	7	46
H29	13	9	10	3	10	6	3	1	6	2	3	10	76
H28	18	9	7	9	5	4	11	6	1	9	5	8	92
H27	17	5	8	8	4	5	6	9	6	7	11	14	100
H26	10	7	10	9	10	7	7	6	5	4	1	6	82

表2-25 訓練終了の状況 (単位:人)

区分	H30	H29	H28	H27	H26
経過良好	77	34	75	50	32
他機関へ移行	4	9	26	4	9
転居	1	3	6	0	2
その他	11	11	11	16	12
計	93	57	118	70	55

表2-26 障害児等療育支援事業への参加状況

今年度は新たに、地域の小中学校の特別支援学級(肢体不自由クラス)担当教員向けの肢体不自由教育勉強会に携わった。また、前年度からの事業のリハビリデイキャンプ(小学校で行う野外活動の事前練習)を実施した。以前より実施している放課後等デイサービス事業所の事例検討会は、今年度から講話と事例検討の2本立てにて実施した。

エクササイズグループは今年度から2チームに分け、1クール9回、運動活動の提供及び指導を行った。発達障害から起因する運動の苦手さや肥満傾向のある児に対して、肥満改善と保護者の意識改革にアプローチした。

事業名		参加回数	延べ人数	備考
豊橋特別支援学校	自立活動相談デー	3	11	特別支援学校への定期的な巡回相談
	個別の巡回相談	1	1	
	肢体不自由教育勉強会	1	99	教職員向けの研修
	自立活動講習会	1	47	教職員向けの研修
くすのき特別支援学校 夏期研修		1	41	教員向けの研修
Mori Mori講座		2	38	市内の保育士・教員向けの出前講座
巡回相談	小学校	4	13	
	児童発達支援センター 高山学園	5	66	ケース検討 1回
	保育園・幼稚園・認定こども園	11	36	
豊橋市保育園訪問療育		5	29	他の事業所と共同で実施している事例検討会
放課後等デイサービス講話・事例検討会		1	20	豊橋市内放課後等デイサービス事業所の職員研修・事例検討会
保育園・幼稚園・認定こども園職員研修会		1	23	事例を通しての講話・実技
乳幼児健診事後教室(こども保健課)		8	137	保護者向けの講話
エクササイズグループ		9	173	運動が苦手であったり、肥満傾向にある児への運動実践・指導、調理体験
リハビリデイキャンプ		1	21	学校行事野外活動の事前体験・保護者交流
計		54	755	

(3) 言語聴覚療法

聴こえやことばの発達に心配がある子どもに対して、ことばやコミュニケーション、社会性の発達を促す支援を行った(表2-27、2-28、2-29、2-30、2-31)。

利用状況としては全体数が前年度に比して減少しているが、新患者の減少が影響していると考えられる。

診療部門での内容として個別訓練以外で他職種(臨床心理士・作業療法士)と行う年長児の就学前グループの訓練を平成23年度から継続して実施している。少人数のグループで、学校生活をイメージした課題を経験することにより、自信が付き、就学への不安軽減につながっている子どもたちの姿があるため、今後も継続していきたい。また、今年度は言語聴覚士の養成大学から実習生を1名受け入れた。実習生の受け入れは子どもを対象とした診療機関の役割の一つとして考えている。その他、センター内外来グループ療育事業に参加した。

診療部門以外の業務として、相談部門の面接相談には79回関わり、発音の不明瞭さ、吃音、ことばの発達の遅れなどについての相談に応じ、必要な場合は診療への橋渡しを行った。

表2-27 年齢別状況

(単位:人)

区分	就学前児童						小学生		中学生	その他	計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	低学年	高学年			
H30	0	2	36	63	108	128	224	66	13	8	648
H29	0	7	38	85	108	155	226	71	21	5	716
H28	0	10	54	85	155	156	222	75	22	4	783
H27	0	7	44	105	131	126	226	61	17	3	720
H26	0	8	50	93	109	113	203	51	8	2	637

表2-28 診断区別状況

(単位:人)

診断区分	H30	H29	H28	H27	H26	備考
広汎性発達障害	328	369	418	405	395	
発達性構音障害	73	81	79	56	46	
知的障害	48	44	44	39	29	
言語発達遅滞	42	62	60	54	34	
ダウン症候群	33	38	43	36	28	
吃音	33	25	24	11	13	
脳性麻痺	21	25	25	29	18	
先天性奇形	11	14	11	14	17	
表出性/受容性言語障害	6	6	8	6	5	
注意欠陥多動性障害	4	6	10	7	6	
唇裂口蓋裂	4	6	6	3	2	
難聴	1	1	3	1	2	
その他の染色体異常	24	23	31	27	20	ミラーディッカー症候群・ヌーナン症候群など
その他	20	16	21	32	22	筋ジストロフィー・急性脳症後遺症など
計	648	716	783	720	637	

表2-29 通園・通学先の状況 (単位:人)

区分	H30	H29
豊橋特別支援学校	35	36
くすのき特別支援学校	36	31
その他の特別支援学校	3	7
保育園・幼稚園・認定こども園	282	324
つつじ教室	17	12
高山学園	28	30
その他療育機関	11	18
小学校 通常学級	106	124
小学校 特別支援学級	119	116
中学校 通常学級	4	7
中学校 特別支援学級	3	0
高校	1	0
在宅	1	10
その他	2	1
計	648	716

表2-30 新患数の状況 (単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30	20	8	14	14	11	12	12	8	10	13	13	13	148
H29	21	13	19	12	13	12	13	8	8	17	15	20	171
H28	22	18	18	23	10	18	17	17	13	14	17	20	207
H27	31	22	17	16	11	22	20	19	21	10	23	23	235
H26	19	11	12	22	6	8	7	14	6	9	11	17	142

表2-31 訓練終了の状況 (単位:人)

区分	H30	H29	H28	H27	H26
経過良好	105	132	117	99	70
他機関へ移行	22	17	46	8	11
転居	4	6	13	5	8
その他	44	60	71	38	43
計	175	215	247	150	132

障害児等療育支援事業への参加状況(表2-32)

障害児等療育支援事業への参加では、保育園、幼稚園、認定こども園や小学校を対象とした出前講座(MoriMori講座)や、豊橋聾学校夏期校内研修、豊橋特別支援学校肢体不自由教育勉強会にて教職員向けの講話を行った。

また、個々の子どもたちへの対応について話し合う巡回相談、他の事業所と当センター相談部が共同で実施している市内保育園・認定こども園を対象とした訪問療育、放課後等デイサービス事業所の事例検討会へ参加し(一回は講座を担当)、当センター主催の保育士・幼稚園教諭を主な対象とした研修会を他職種とともに行った。

その他、こども保健課で実施している健診事後教室へ参加した。

表2-32

事業名		参加回数	延べ人数	備考
豊橋聾学校夏期校内研修		1	18	教職員向けの講話
豊橋特別支援学校肢体不自由教育勉強会		1	47	教職員向けの研修
Mori Mori講座		4	73	市内の保育士・教員向けの出前講座
巡回相談	小学校	6	19	
	児童発達支援センター 高山学園	5	50	ケース検討1回
	保育園・幼稚園・認定こども園	16	55	
豊橋市保育園訪問療育		10	55	他の事業所と共同で実施している事例検討会
放課後等デイサービス講話・事例検討会		1	28	豊橋市内放課後等デイサービス事業所の職員研修・事例検討会
保育園・幼稚園・認定こども園職員研修会		1	23	事例を通しての講話・実技
乳幼児健診事後教室(こども保健課)		8	130	保護者向けの講話
計		53	498	

第3 通園事業部門

1 外来グループ療育事業 (親子通園) つつじ教室「ひまわり組・すみれ組・ばら組」

(1)目的

未就園または保育園、幼稚園、認定こども園に入所している概ね3歳までの発達が心配な児に対し、親子通園のもと、あそびを通して親子で関わる楽しさを知る。

(2)定員 120人

4月に午前3クラス90人でスタート。6月に午後1クラス、8月末に午後クラスをもう1クラス増やし、入園希望の増加に応じたクラス運営を行った。

クラス編成は、2グループ(6クラス)の内2クラスは保育園、幼稚園、認定こども園に籍を置く併用児が多いクラスとした。

○ 火・木グループ ひまわり組、すみれ組、ばら組 各15人	計45人
○ 水・金グループ ひまわり組、すみれ組、ばら組 各15人	計45人
○ 火・木グループ ばら組(午後)	計15人
○ 水・金グループ ばら組(午後)	計15人

(3)基本理念

児童は人として重んぜられ、家庭の中、社会の中で育てられるとともに、その子らのニーズに基づき権利が守られる。そして、年齢や全体能力、発達段階に応じて専門的支援により、可能な限り成長、発達が図られる。児童のみならず保護者への支援も重要となる。

(4)運営方針

地域のニーズを的確に捉え、成長、発達の心配な児童に親子通園を通して適切な援助を提供し、一人ひとりの発達の促進を目指す。

また、保護者のよき理解者として専門的な立場からの援助提供に努める。

(5)療育計画

① 療育目標

親子であそびや様々な経験を通して親子のコミュニケーションを深める。

② 活動及び日課

9:30 ～(13:30 ～)

始まりの会(スケジュール表確認)

散歩

ふれあいあそび

今日の活動

帰りの会

③ 活動

○ 散歩

保護者と手をつないで「ほいっぷ」周辺を歩く。

○ ふれあいあそび

親子でふれあいあそびをする中で人とかかわり合う楽しさを知る。

○ 運動あそび

トランポリン、平均台など運動器具で遊ぶ中で楽しみながら体の使い方を知る。

○ 感覚あそび

色々な素材に触れたり、遊んだりする中でいろいろな感覚を知る。

○ 園外療育(高師緑地公園・豊橋総合動植物公園)

保護者と一緒に園外に行くことで、園内では体験できないことを親子で体験し、あそびの幅を広げていく。

(6) 入園までの経緯

つつじ教室への入園の経緯としては、こども保健課での健診、事後教室後の紹介が多いが、つつじ教室への認知度が高まり、保育園、幼稚園、他機関からの紹介も増えている。

表3-1 紹介者、紹介機関

(単位:人)

紹介者	紹介機関	職種等	H30	H29	H28	H27	H26
あり	こども保健課	保健師	177	142	153	120	124
	こども発達センター診療部	医師	6	9	15	9	20
		言語聴覚士	0	0	2	0	2
	こども発達センター相談部		14	10	11	22	11
	豊橋市民病院	医師	4	0	2	1	1
		言語聴覚士	2	3	0	1	0
	豊橋市役所	保育課	0	1	0	0	0
	他医療機関(耳鼻科)	言語聴覚士	0	1	0	0	0
	他医療機関(児童精神科)	医師	10	3	0	0	0
	東三河児童・障害者相談センター		0	0	1	1	0
	豊橋聾学校		0	0	0	1	0
	保育園	保育士	7	5	3	8	3
	幼稚園	教諭	2	0	1	1	1
	認定こども園	保育教諭	7	1	0	0	0
	あゆみ学園		1	0	0	0	1
社会福祉協議会		1	0	0	0	0	
	小 計		231	175	188	164	163
なし	保護者		9	17	0	4	9
	合 計		240	192	188	168	172

総入園数240名

(7) 保護者等支援

① 保護者支援

教室では、親子関係の土台作りをしながら、その子の特性や発達段階に応じた関わり方や育ちに対する意識がもてるように、親子それぞれに合った個別支援を行っている。

それぞれの家庭環境に合った働きかけをして子育て全般への支援を行いながら、子どもの育ちの状態を共通理解し、適切な進路を見つけるようにしていきたいと考えている。

今後は、子どもに対する支援はもとより、育児不安や子どもを取り巻く家庭環境や社会情勢の変化など、様々な問題を抱える保護者の負担が少しでも軽減され、自信を持って子育てしていけるような親支援の更なる充実に図っていききたい。

表3-2 保護者向け講習実績

月	内容	講師
6	「つつじ教室に通う」という事の意味を考える	豊橋市こども発達センター 小児科医師
7	ことばの話 ①	豊橋市こども発達センター センター長 児童精神科医師
8	就園について	豊橋市役所 保育課
9	ことばの話 ②	豊橋市こども発達センター センター長 児童精神科医師
10	子どもの発達と関わりについて ～生活技能編～	豊橋市こども発達センター センター長 児童精神科医師
11	子どもの発達と関わりについて ～対人関係編～	豊橋市こども発達センター センター長 児童精神科医師
12	ことば「コミュニケーションへの第一歩」	豊橋市こども発達センター 言語聴覚士
1	作業療法とは	豊橋市こども発達センター 作業療法士
2	子どもの気持ちを考える	豊橋市こども発達センター 臨床心理士
3	子どもの発達について ～次のステップの心構え～	豊橋市こども発達センター 小児科医師

② 支援者支援

併用児への支援や卒園児へのアフターフォローとして、つつじ教室の担任保育士がそれぞれ在籍している園を訪問したり、つつじ教室見学研修を利用して担任が個別で相談を受けている。保育現場での悩み等を担任保育士と共有しながら、支援方法を一緒に考えていくことで在籍している園と連携を図ることができた。

また年度途中入園や次年度に入園を予定している園と、入園前からの連携をとることも可能になっている。

(8)活動実績など

通園事業(つつじ教室)には、医療部門から児童精神科の医師をはじめ、臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士等が定期的に日常の療育に参加し、児の観察や助言などを行っている。必要な保護者には、その都度、具体的なアドバイスや指導を受ける機会となり、子育てに向き合える場となっている。その中で、診療科の受診やリハビリを受けることにつながるケースもあり、連携がスムーズに行われるようになってきた。

表3-3 利用実績

(単位:人)

区分	4歳		3歳		2歳		1歳		当月末在籍児童数		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
4月	0	0	29	3	53	10	1	1	83	14	97
5月	0	0	35	5	47	9	0	0	82	14	96
6月	2	0	38	8	48	7	0	0	88	15	103
7月	9	1	35	10	56	19	0	0	100	30	130
8月	11	2	46	12	48	17	0	0	105	31	136
9月	11	3	59	13	51	21	0	0	121	37	158
10月	12	3	59	17	49	21	0	0	120	41	161
11月	13	2	61	19	45	18	1	0	120	39	159
12月	14	3	72	22	51	15	1	0	138	40	178
1月	13	4	78	19	43	15	1	0	135	38	173
2月	18	6	80	20	37	15	0	0	135	41	176
3月	17	7	80	19	35	16	0	0	132	42	174
H30	120	31	672	167	563	183	4	1	1,359	382	1,741
H29	94	36	655	141	533	151	0	0	1,282	328	1,610
H28	96	55	487	213	399	183	3	0	985	451	1,436
H27	23	8	506	120	456	116	0	0	985	244	1,229
H26	41	0	547	91	362	112	0	0	950	203	1,153

表3-4 受診状況

区分	小児科					児童精神科				
	H30	H29	H28	H27	H26	H30	H29	H28	H27	H26
人数(人)	33	48	48	34	38	46	57	46	25	41
受診率(%)	13.8	25.0	25.5	20.2	22.1	19.2	29.7	24.5	14.9	23.8

・重複あり。総数はH30:240人、H29:192人、H28:188人、H27:168人、H26:172人

表3-5 リハビリテーション実施件数

区分	理学療法					作業療法					言語聴覚療法				
	H30	H29	H28	H27	H26	H30	H29	H28	H27	H26	H30	H29	H28	H27	H26
人数(人)	0	0	1	1	0	7	9	11	14	11	37	42	46	38	34
割合(%)	0.0	0.0	0.5	0.6	0.0	2.9	4.7	5.9	8.3	6.4	15.4	21.9	24.5	22.6	19.8

・重複あり。総数はH30:240人、H29:192人、H28:188人、H27:168人、H26:172人

表3-6 年間行事

月	内 容
4	療育始め
5	園外療育(高師緑地公園)
	個別相談日
6	保護者向け講習
	個別相談日
7	保護者向け講習
	個別相談日
8	夏休み(個別相談週間)
	保護者向け講習
9	保護者向け講習
	個別相談日
	園外療育(豊橋総合動植物公園)
10	保護者向け講習
	個別相談日
	保育園入所希望者面接
11	保護者向け講習
	個別相談日
12	保護者向け講習
	冬休み(個別相談週間)
1	保護者向け講習
	個別相談日
2	保護者向け講習
	個別相談日
3	保護者向け講習
	療育納め
3ヶ月に1回	避難訓練
毎月2回	おやつの日

(1)目的

在宅の重症心身障害児(身体障害者手帳1級かつ療育手帳A判定相当の児)を対象に、単独通園を行なうことで対人関係やコミュニケーションなど社会性の向上に向けた療育を提供する。また、日常生活動作や運動機能などの訓練や指導を行い、保護者に対しても家庭における療育技術を伝達する。スタッフとしては、保育士・看護師・理学療法士が主にに関わり、その他、医師・作業療法士・言語聴覚士も随時関わる。

(2)定員 5名/日(重症心身障害児:主に年長・年中の児)

(3)基本理念

児童は人として重んぜられ、家庭の中、社会の中で育てられるとともに、その子らのニーズに基づき権利が守られる。そして、年齢や全体能力、発達段階に応じて、専門的支援により可能な限り、成長・発達が図られる。児童のみならず保護者への支援も重要となる。

(4)運営方針

地域との結びつきを重視し、東三河児童・障害者相談センター、関係市町、居宅支援事業者、地域の保健・医療・福祉サービスなどとの連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。また、重症心身障害児に対し日常生活動作、運動機能等に係る訓練、指導等必要な療育を行い、その発達を促す。

(5)療育計画

①療育目標

- いろいろな活動を通して、友だちと一緒にいることを楽しめるようにする。
- 親子分離の経験をしながら、誰からの介助でも快く受けられるようにする。
- 保護者が子どもを理解し、子どものより良い育ちを援助できるようになる。

②活動及び日課

時間	活動
9:30	登園 散歩
10:10	朝の会 ふれあい体操
10:40	クラス活動
11:20	食事準備 お口の体操
11:30	食事 歯磨き
12:40	休息
13:10	リハビリ 個別あそび
14:10	クラス活動
14:40	おやつ
15:00	帰りの会
15:30	降園

③活動のねらいと内容

- 基本的な生活習慣(食事)
食の幅(味、調理形態等)を広げ、咀嚼・嚥下する力をつける。また、自分のもつ機能を十分生かして、安全に美味しく楽しく食べる。
- 外気浴、散歩
自然に触れることで、豊かな情操心を育てる。
- 音楽あそび
手あそび、歌あそび、楽器あそびなどいろいろな音楽を経験をする。
- 運動あそび
姿勢を保つ、姿勢を保ったまま手で足を動かす、姿勢を変える、移動するなど、体を動かす力を育てる。
- 感覚・造形あそび
色々な素材に触れたり遊んだりする中で情緒の安定を図るとともに楽しさを味わう。

④行事(保護者参加)

- 園外保育
普段体験できないことを親子や友だちと一緒に体験し、興味や関心を広げる。
- 療育参観
子どもの療育中の様子を見ていただき、子どもの理解と成長発達をともに見守り考えていく。
時期 — 4月、6月、8月、2月
- ゆり組講座
保護者に対して様々な専門職から、家庭での子育てをする上で知っておいてほしい知識を伝える。また、保護者同士の交流の機会ともなる。
時期 — 5月、9月、1月

⑤家庭訪問

家庭環境を知り、療育や日常に活かせるような支援をする。

⑥個人懇談

保護者の想いを知る機会とし、児童発達支援計画に反映させていく。

⑦慣らし療育(新入園児)

療育内容や流れを知ってもらい、新しい環境の場を親子で経験し、不安なく単独通園へ繋げられるようにする。また、親、子、職員がお互い共感し分かりあえる関係づくりができるようにする。

⑧リハビリテーション(理学療法、作業療法、言語聴覚療法)

毎日の療育の中に理学療法士も参加し、他の療育スタッフと協力して、こどもの様々な発達を促すためのプログラム作り、姿勢のケア、食事場面への介入などを行う。作業療法士、言語聴覚士もそれぞれの専門的な視点から、クラス活動や食事などについてのアドバイスを行う。また、各通園児に対して、個別のリハビリテーションを行う。

⑨看護

児の健康管理と生活リズム作りの援助、医療的ケアを行いながら療育に参加する。

- 身体測定
身長と体重を毎月測定する。
- 健康診断
年1回行う。
- 健康相談
食事・睡眠・排泄、服薬等、日常生活における心配事や困りごとの相談に応じる。
- 医療的ケア
必要な医療的ケア(人工呼吸器の管理、吸引、経管栄養等)を提供する。

(6)家庭訪問療育「ゆりっこ」

豊橋市内在住の、常時人工呼吸器を使用しているなどの理由で外出が困難な重症心身障害児に対して、保育士等が自宅を訪問して療育を提供するサービスを平成26年度から実施している。

①療育目標

- 色々なあそびを通して、より子どもらしい経験ができるようにする。
- 保護者と子どもと一緒に楽しんで遊ぶ経験を増やす。
- 季節の変化を楽しみ、在宅生活をより豊かなものにする。

②活動内容

音楽あそび、運動あそび、感覚・造形あそびなど児童発達支援事業の療育に準ずる。

③訪問回数

1～2回/月、1回1時間程度

(7)活動実績など

①児童発達支援事業

表3-7 地域別
豊橋市在住の児の利用が多い。

(単位:人)

区分	豊橋市	豊川市	田原市	蒲郡市	計
3歳児	0	0	0	0	0
4歳児	2	0	0	0	2
5歳児	2	1	0	0	3
H30計	4	1	0	0	5
H29計	6	0	0	0	6
H28計	4	0	0	0	4
H27計	2	0	0	0	2
H26計	3	0	0	0	3

表3-8 年齢別・男女別
3歳児～5歳児の利用が中心である。男児よりも女児が多い。

(単位:人)

区分	男	女	H30計	H29計	28計	H27計	H26計
1歳児	0	0	0	0	0	0	1
2歳児	0	0	0	0	0	1	0
3歳児	0	0	0	1	2	0	0
4歳児	1	1	2	2	1	0	1
5歳児	0	3	3	3	1	1	1
H30計	1	4	5				
H29計	1	5		6			
H28計	1	3			4		
H27計	1	1				2	
H26計	2	1					3

表3-9 医療的ケア

半数は何らかの医療的ケアを必要としている。

(単位:人)

区分	なし	人工呼吸器	吸引	経管栄養(経鼻)	経管栄養(胃ろう)	気管切開	導尿	酸素療法
3歳児	0	0	0	0	0	0	0	0
4歳児	0	1	2	1	1	1	1	1
5歳児	3	0	0	0	0	0	0	0
H30計	3	1	2	1	1	1	1	1
H29計	2	2	3	2	2	2	1	1
H28計	2	2	2	2	0	2	0	2
H27計	1	0	1	0	0	1	0	0
H26計	0	0	2	1	1	1	0	0

・重複ケアあり

表3-10 栄養摂取

経口摂取が可能な児は約半数である。

(単位:人)

区分	経管栄養	経口摂取	経口・経管 の両方
3歳児	0	0	0
4歳児	2	0	0
5歳児	0	3	0
H30計	2	3	0
H29計	3	2	1
H28計	2	2	0
H27計	0	2	0
H26計	1	2	1

表3-11 年間行事

月	内 容
4	個別懇談
	入園式・療育始め
	療育参観
5	家庭訪問(新入園児は入園前の3月に実施)
	ゆり組講座 担当－看護師・理学療法士
	「先輩お母さんからのお話し」(豊橋市肢体不自由児(者)父母の会)
6	療育参観・家庭訪問療育利用児との交流
7	園外保育(視聴覚教育センター)・七夕会
	プール開き
	プール参観
8	夏休み
	さくらびあプール療育
9	ゆり組講座 担当－理学療法士・保育士・看護師 「サポートブックを作ろう」
10	運動会
	個別懇談
11	園外保育(豊橋総合動植物園)
12	クリスマスの集い
	クリスマス会
	冬休み
1	ゆり組講座 担当－理学療法士・保育士・看護師 「ゆり組卒園児先輩お母さんからのお話し」
2	豆まき会
	平成31(2019)年度入園説明会・健康診断
3	ひなまつり会
	お別れ遠足
	卒園式
	春休み
毎月1回	身体測定・避難訓練(火災・地震・不審者侵入)・緊急対応訓練
誕生児がいる月	誕生会

② 家庭訪問療育「ゆりっこ」

表3-12 年齢別・男女別

通所の児童発達支援事業よりも低年齢の児が多い。

(単位:人)

区分	男	女	H30計	H29計	H28計	H27計	H26計
1歳児	0	0	0	1	1	2	0
2歳児	0	1	1	2	1	0	2
3歳児	1	1	2	1	0	1	1
4歳児	0	0	0	0	1	0	0
H30計	1	2	3				
H29計	2	2		4			
H28計	1	2			3		
H27計	0	3				3	
H26計	1	2					3

表3-13 医療的ケア

全員が人工呼吸器を使用している。

(単位:人)

区分	人工呼吸器	吸引	経管栄養(経鼻)	経管栄養(胃ろう)	気管切開	導尿	酸素療法
1歳児	0	0	0	0	0	0	0
2歳児	1	1	1	0	1	0	1
3歳児	2	2	1	1	2	1	0
4歳児	0	0	0	0	0	0	0
H30計	3	3	2	1	3	1	1
H29計	4	4	2	2	4	1	2
H28計	2	3	0	3	3	1	0
H27計	2	3	1	2	2	1	0
H26計	3	2	1	1	2	1	0

・重複ケアあり

3 重症心身障害児(者)日中一時支援事業 つつじ教室「ゆり組」

(1)目的

家族の病気や事故、学校行事等への参加、休養等の理由で、在宅介護が困難になった場合に、児(者)を一時的に預かり、家族への支援を行う。あわせて、日中における活動の場を提供する。スタッフとしては、看護師・保育士・理学療法士の3職種が関わる。

- ・看護師－利用児(者)の健康管理を行い、主に常時介護や医療的ケアを提供する。
 - ・保育士－1日が楽しく過ごせるように、活動内容を計画する。
 - ・理学療法士－1日の活動場面に合わせて、適した姿勢管理を行い、楽しく活動に参加できるように関わる。
- また、食事の場面への介入も行い、安全に楽しく食事が出来るように関わる。

(2)定員 2名／日

対象は、原則として身体障害者手帳1級、療育手帳A判定又はB判定
* 上記にあてはまらない場合でも協議のうえ対応を検討することがある。

(3)利用日時・時間

火曜日から土曜日の午前10時～午後3時

(4)基本理念

1日の活動を安全に楽しく充実したものになるように支援する。

(5)一日の過ごし方

活動内容・日課は児童発達支援事業の療育内容にほぼ準ずる。

(6)活動実績など

利用者、登録者の約9割は豊橋市在住である。今年度、3年間利用がない方に対して、継続利用の意思確認をしたため、登録者数は減少している。

表3-14 地域別利用者及び登録者 (単位:人)

区分	豊橋市		豊川市		田原市		新城市		計	
	利用者	登録者	利用者	登録者	利用者	登録者	利用者	登録者	利用者	登録者
就学前	6	14	0	2	0	1	0	0	6	17
小学生	6	12	0	1	0	1	1	1	7	15
中学生	6	8	0	0	1	1	0	0	7	9
高校生	3	5	0	0	1	1	0	0	4	6
18歳以上	5	14	0	1	0	1	0	0	5	16
H30計	26	53	0	4	2	5	1	1	29	63
H29計	22	57	2	10	2	5	1	1	27	73
H28計	28	58	4	10	3	5	1	1	36	74
H27計	33	57	2	8	2	5	1	1	38	71

・利用者は登録者のうち当該年度に日中一時支援事業を利用した人数

表3-15 年齢別・男女別
学童期の利用が多い。

(単位:人)

区分	男	女	H30計	H29計	H28計	H27計
3歳児未満	1	1	2	0	4	4
3歳児	0	1	1	2	2	4
4歳児	1	0	1	0	5	1
5歳児	0	2	2	3	2	1
小学生	3	4	7	6	6	10
中学生	3	4	7	5	6	4
高校生	3	1	4	4	4	6
18歳以上	2	3	5	7	7	8
H30計	13	16	29			
H29計	16	11		27		
H28計	25	11			36	
H27計	24	14				38

表3-16 医療的ケア

利用者の7割に何らかの医療的ケアが必要である。吸引、経管栄養を必要とする利用者が多い。

(単位:人)

区分	なし	人工呼吸器	吸引	経管栄養(経鼻)	経管栄養(胃ろう)	気管切開	導尿	酸素療法	経鼻エアウェイ	膀胱ろう
就学前	4	3	3	1	1	3	0	0	0	0
小学生	1	2	5	2	3	5	1	2	0	0
中学生	2	0	5	3	2	1	0	1	2	0
高校生	1	0	2	0	2	2	0	0	0	0
18歳以上	4	0	1	0	1	0	1	1	0	0
H30計	12	5	16	6	9	11	2	4	2	0
H29計	9	2	14	6	9	7	2	3	1	0
H28計	13	2	19	1	13	10	5	2	1	1
H27計	13	2	18	3	15	6	4	2	3	1

・重複ケアあり

表3-17 栄養摂取

約5割が経管栄養を必要とする利用者である。

(単位:人)

区分	経管栄養	経口摂取	経口・経管の両方
就学前	2	4	0
小学生	5	2	0
中学生	3	2	2
高校生	2	2	0
18歳以上	1	4	0
H30計	13	14	2
H29計	13	12	2
H28計	14	20	2
H27計	16	20	2

表3-18 運動機能(座上座位保持)
約9割は座位保持不可能である。

(単位:人)

区分	不可能	可能	計
就学前	5	1	6
小学生	7	0	7
中学生	7	0	7
高校生	3	0	3
18歳以上	3	3	6
H30計	25	4	29
H29計	22	5	27
H28計	29	7	36
H27計	30	8	38

表3-19 身障者手帳・療育手帳
9割以上が身体障害者手帳1級、療育手帳A判定を所持している。

(単位:人)

区分	1級A判定	1級C判定	2級A判定	1級のみ	計
就学前	5	0	0	1	6
小学生	7	0	0	0	7
中学生	6	1	0	0	7
高校生	4	0	0	0	4
18歳以上	4	0	1	0	5
H30計	26	1	1	1	29
H29計	25	1	1	0	27
H28計	34	1	1	0	36
H27計	36	1	1	0	38

Ⅲ 資料編

1 会議等

(1) センター内部

- ・全体会議：子ども発達センターの全ての職種の代表者で構成し、専門委員会にて審議した内容の決定や、施設の運営全般に係る案件についての方向性を定める(センターの管理・運営、事業の企画・運営、実施する業務全般)。
- ・専門委員会：全体会議の下部組織として、多職種で構成する専門委員会を置いている(安全管理、重症心身障害児通園・日中一時支援、学術・広報、療育等支援、電子カルテ等システム)。

(2) センター外部 (委嘱・依頼等に基づき参加)

- ・豊橋市障害者自立支援協議会
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(H17法律第123号)に基づく協議会、福祉・保健・教育・雇用・医療等の関係機関によるネットワーク構築等の協議を行う。
- ・*子ども専門部会(こどもの支援に関する事項)
 - 療育関係者連絡会議
 - 放課後等デイサービス連絡会
 - 事例検討会
- ・豊橋市地域保健推進協議会母子保健部会
母子保健の向上および事業の推進に関すること等を協議する。
- ・豊橋市子ども・若者支援地域協議会
社会生活を円滑に営む上での困難を有する若者を包括的に支援する。
- ・豊橋市要保護児童対策ネットワーク協議会
要保護児童の適切な保護又は要支援児童若しくは特定妊婦への適切な支援を図る。
- ・豊橋市立小中学校就学支援委員会
障害のある児童生徒の就学、入級指導の適正を期する。
- ・豊橋市不登校対策推進協議会
不登校児童生徒への支援や条件整備、不登校の予防的施策等を含め、幼児期から青年期までの子どもの健やかな成長について協議する。
- ・子ども相談連絡会
乳幼児をもつ家庭の相談・支援に携わる機関同士の横のつながりと連携を図る。
- ・豊橋市特別支援連携協議会
障害のある子どもやその保護者への相談・支援にかかわる関係団体・機関等の円滑な連携協力を図る。
- ・豊橋市いじめ問題対策連絡協議会
学識経験者、学校代表、保護者代表、警察、心理・医療の専門家、弁護士、相談機関・関係行政機関の代表で構成される協議会において、いじめ防止等に関し連携を図る。
- ・豊橋市民病院小児科研修管理委員会
豊橋市民病院における小児科専攻医としての臨床研修に関する事項を所掌するための委員会

2 条例等抜粋

(1) 豊橋市こども発達センター条例 (平成21年条例第41号)

第1条(趣旨) 設置及び管理について必要な事項を定める。

第2条(設置) 心身に障害のある児童及びその疑いのある児童(以下「児童」という。)の地域における療育体制の充実及び福祉の向上を図るため、こども発達センターを次の場所に置く。

2 こども発達センターには、診療所を置く。

第3条(事業) 児童に関する相談及び指導。児童に対する検査、判定及び評価。児童に対する診断及び治療。児童に対する療育及び訓練。その他市長が必要と認める事業

第4条(診療科目) 小児科、児童精神科、整形外科、耳鼻いんこう科及び歯科とする。

第5条(使用者) 児童及びその保護者。その他市長が児童の福祉の向上のために相当と認めた者。

第6条(使用料等) 診療所を使用する者は、使用料又は手数料を納付しなければならない。

・使用料の額:健康保険法の規定により厚生労働大臣が定める算定方法によって算定した額。

・診断書又は証明書の交付に係る手数料の額:1通につき4,320円の範囲内で別に定める額。

2 特別の材料その他特に費用を要したときは、別にその費用を徴収する。

第7条(使用料等の減免等) 特別の事由があると認めたとき:減免、又は徴収猶予。

第8条(損害賠償) 使用する者がその施設、設備等を損傷し、又は滅失したとき。

第9条(委任)

附 則

(2) 豊橋市こども発達センター条例施行規則 (平成22年規則第4号)

第1条(趣旨)

第2条(開館時間) 開館時間は、午前8時30分から午後5時15分までとする。

第3条(休館日) 日曜日及び月曜日。国民の祝日に関する法律に規定する休日。12月29日から翌年の1月3日までの日。市長が特に必要があると認めた日。

2 休館日において診療等の必要があると認めたときは、別に開館日を定めることができる。

第4条(診療の範囲) こども発達センターの診療は、外来のみとする。

第5条(診療の申込み) 診療を受けようとする者は、診療の申込みをしなければならない。

第6条(手数料) 条例第6条第1項第2号に規定する手数料の額は、別表のとおりとする。

第7条(使用料等の減免等) 使用料等減免・徴収猶予申請書

第8条(委任)

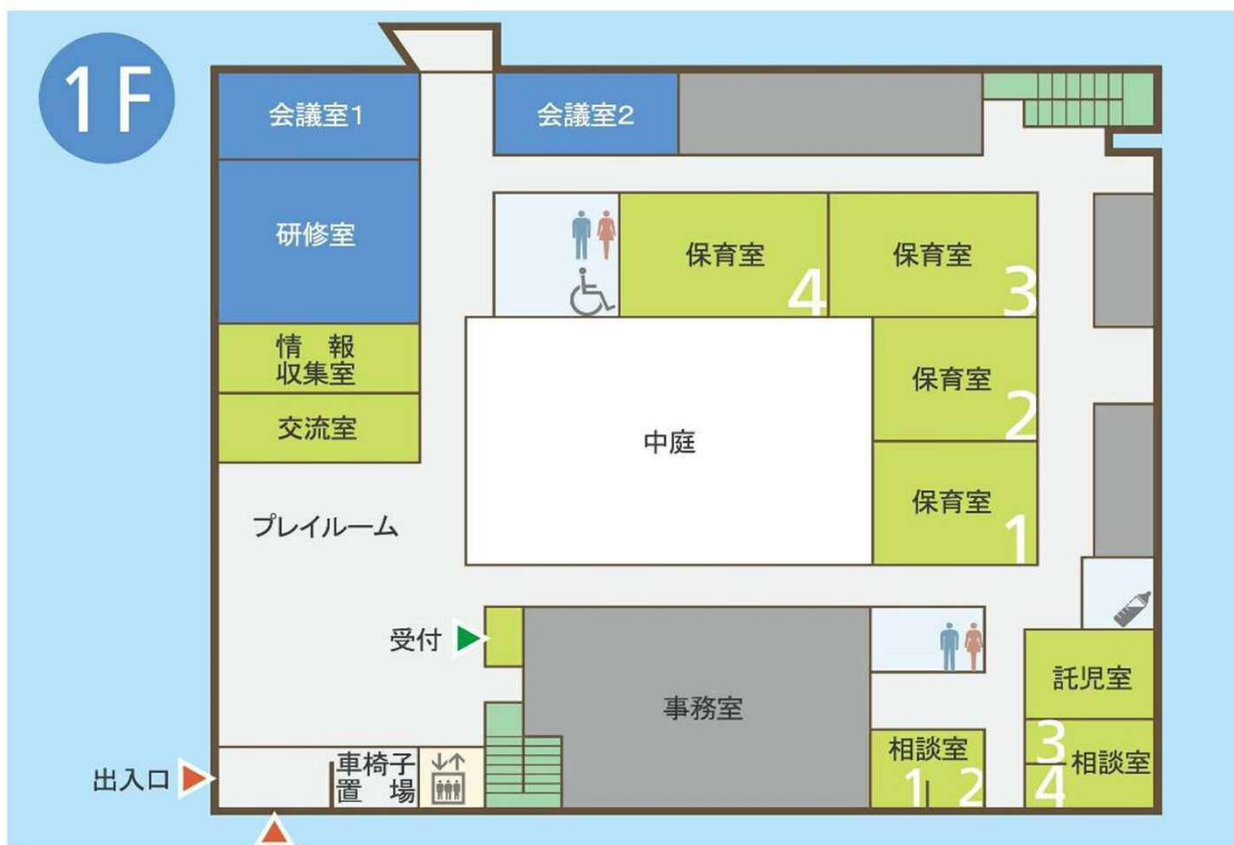
附 則

別表(第6条関係)

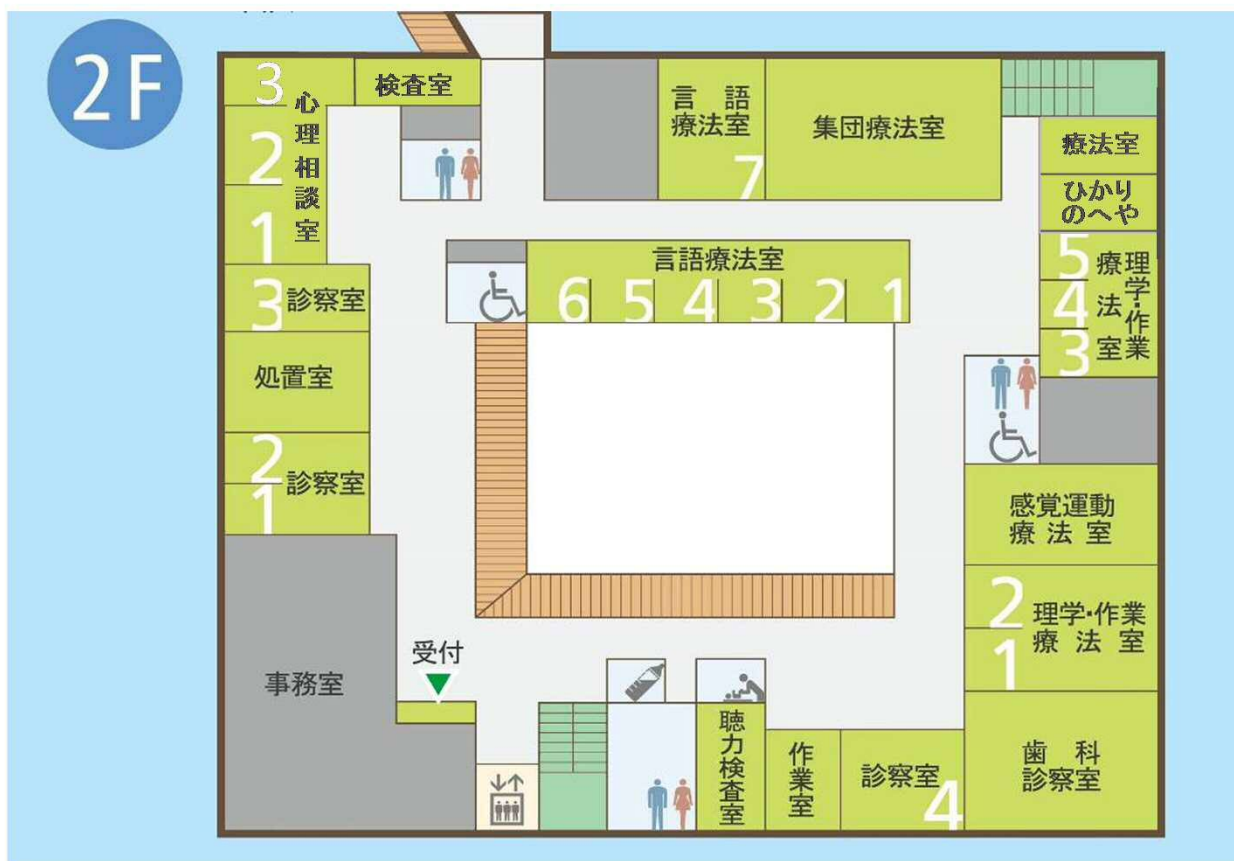
区分	単位	手数料
領収証明書その他これに類するもの	1通	1,080円
普通診断書その他これに類するもの	1通	1,620円
精密診断書その他これに類するもの	1通	3,240円
生命保険会社用診断書その他これに類するもの	1通	4,320円

3 建物の平面図・案内図

(1階平面図)



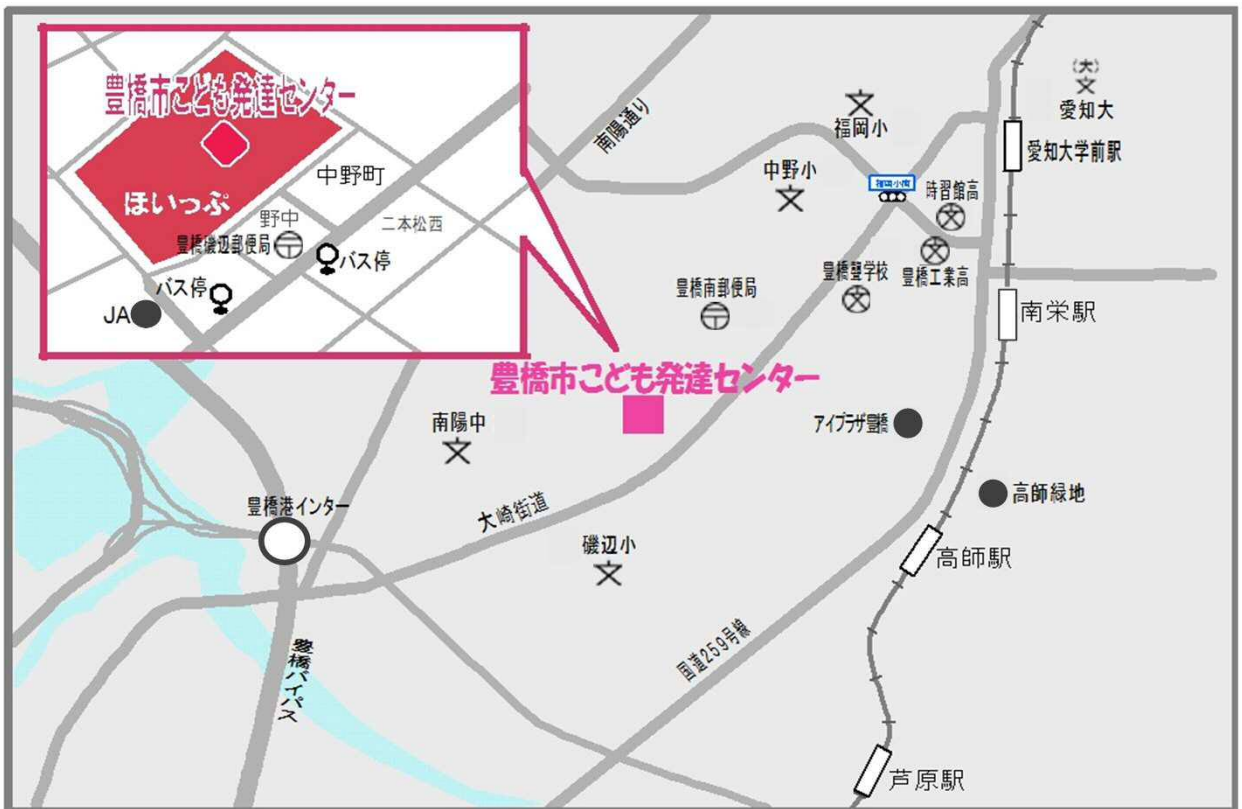
(2階平面図)



(敷地全体図)



(交通案内図)



こども発達センター年報(平成30年度版)

発行 令和2年1月

豊橋市こども発達センター

〒441-8539 豊橋市中野町字中原100番地

電話 : 0532-39-9200 FAX : 0532-47-0911

E-mail : hattatsu-center@city.toyohashi.lg.jp

ホームページ : <https://www.hattatsu-center.jp/>